事例No.	1299
公表年度	R1
団体の属性	一般市
団体名	長野県東御市

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

関係人口によるワインクラスター創出事業

出典

関係人口創出・拡大事業（裾野拡大型・裾野拡大（外国人）型）成果報告会

1.地域概要・地域課題・事業に取り組む背景

地域の概要

地域名：長野県東御市
人　　口：30,078人（2020年1月1日）

- 東御市は、長野県の東部に位置し、日照時間が長く、年間降水量が900㎜前後と寡雨地帯。2004年に、小県郡東部町と北佐久郡北御牧村が合併して誕生した。
- 今回の関係人口創出事業の舞台となる田沢地区はは、東御市の西部に位置し、米のほかりんご、ぶどうなどの果実、ブロッコリー、アスパラなどの野菜の栽培が盛ん。近年はワイン産業の発展が目覚ましく、地区内にワイナリーが２軒開業している。
- 主要産業は製造業、農業



解決したい地域課題

- 田沢地区の人口は、2013年の666人が2018年には620人と5年間で７%減少。人口減少、少子高齢化の進行による、地域づくりや農業の担い手不足が課題であり、地域全体の活力低下が危惧されている。
- 横浜市栄区の上郷ネオポリスは、1972年に郊外ニュータウンとして開発された。総人口約5,000人で高齢化率47.7%。ニュータウンの第一世代にあたる高齢者の生きがいづくりと第二、三世代の第二のふるさとづくりを模索していた。

本事業に取り組むに至った背景

- 田沢地区では地域づくりや農業の担い手不足が危惧される一方、田沢地区にあるワイナリーで生産されるワインの評価は高く、ワインを機軸とした地域の活性化に取り組みたいと考えた。
- 上郷ネオポリスのニュータウンを開発した大和ハウス工業（株）はコミュニティの維持、活性化が必要と考え、住民の〝生きがいづくり”が必要と考えていた。
- 双方の〝想い”が一致し、お互いの住民同士が一過性でなく、双方のコミュニティが抱える課題を解決できるような継続的な関係性を構築していくこととなった。

2. 事業概要

●事業概要

＜概要＞
- 横浜市栄区上郷ネオポリスと東御市田沢地区がワインを機軸として
  - ・〝ローカルライフ〟を楽しめる交流環境を整備
  - ・第二、三世代を巻き込んだ世代間交流への波及
  - ・継続的な関係づくり

＜実施事項＞
- 中間管理機能の形成
- 首都圏におけるワインと食の勉強会、意見交換会（２回）
- 農山村集落の魅力を体験するツアー（1回）
- 継続的な交流の象徴となる遊休荒廃農地の整備（約40ａ）
- 農山村集落と首都圏をつなぐＷｅｂサイトの構築
- 関係づくりのシンボルとなるオリジナルワインラベルの制作

●地域の理想の姿

- 上郷ネオポリスなど首都圏居住者へワインを機軸とした農山村集落における〝ローカルライフ〟を提案し、〝ふるさとづくり〟の応援を通じて、長期滞在や二地域居住につなげ、農山村集落におけるワイン産業の持続的な発展と地域づくりや農業の担い手不足解消や地域活性化を実現する。

●理想を実現するための本年度事業の位置づけ

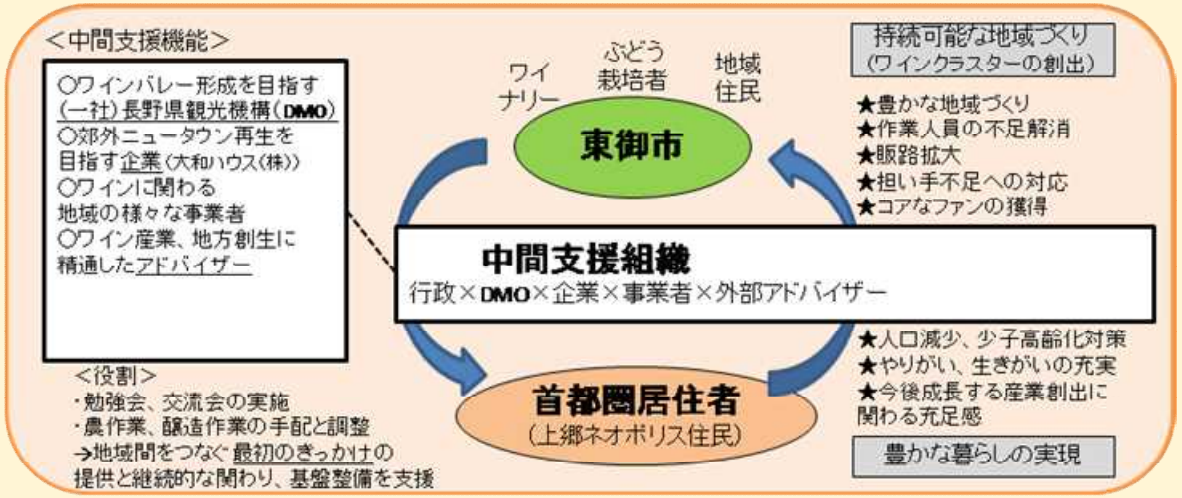
- 双方が掲げる地域課題解決に向け、お互いの地域づくり、まちづくりの活性化につなげる第一歩とする。
- 本事業はパイロット事業として、今後他の地域へ展開し、更に関係人口の拡大に取り組んでいく。

●本年度の目標

- 交流会・意見交換会への延べ参加者数：100名以上
- 東御市へ関心を持つ者の割合：５割以上
- 東御市内での農作業手伝い参加人数：15名以上

3.事業実施体制・スケジュール

●事業実施体制（受け入れ体制を含む）



	組織・団体名等	役割
1	一般社団法人長野県観光機構	中間管理機能の調整、モデル事業全体調整、長野県行政各部局と調整
2	一般社団法人信州とうみ観光協会	（一社）長野県観光機構と連携し、体験ツアーの企画と実施
3	田沢おらほ村活性化委員会	地域住民の調整、ツアー受入調整、農地（遊休荒廃農地）の調整及び整備
4	ワイン産業＆地方創生アドバイザー	ワインに関する専門知識、ワインツーリズムに関する知見、関係人口創出に関するアドバイザー
5	上郷ネオポリスまちづくり協議会	上郷ネオポリスの住民の巻き込み、参加者の募集・確保
6	大和ハウス工業（株）	首都圏住民の調整、勉強会会場などの現地手配、上郷ネオポリスまちづくり協議会との調整
7	東御市	委託事業の管理、受入先として、地元調整、各担当課との連携・とりまとめ、再委託の要件定義

●スケジュール

実施事項	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1 ワインと食のセミナー																開催準備			★			開催準備			★								
2 東御の魅力体験ツアー										開催準備			★				×																
3 Webサイトの制作								Ｗｅｂサイト構築準備																				★					
4 遊休荒廃農地の整備								候補地選定、賃貸借契約、整備委託契約														遊休荒廃農地整備											
5 成果分析（参加者アンケートの分析・報告書作成等）																										アンケート成果分析							
6 オリジナルラベルの制作及び記念ワイン販売																オリジナルラベル製作 ワイン調達・販売許可等				★													

- 当初10月に計画していた農産物の収穫などの体験ツアーは東御市内で台風19号による被害が発生したため、中止とした。

4.事業の「ターゲット」

●事業のターゲット

- 東御市の地元の農畜産物を豊富に用いた魅力ある「食」と「ワイン」を楽しむことができ、農山村集落でしか味わうことができない風情や生活〝ローカルライフ〟を求める首都圏の住民をターゲットとした。
- 双方のまちづくり協議会の役員のほか、第二・三世代など多世代を巻き込んだ関係を構築していくことをコンセプトとした。

●参加者募集のターゲットの設定経緯

- 首都圏のニュータウンにおける第一世代にあたる高齢者の生きがいづくりとして、ワインを機軸とした農山村集落との継続的な交流を新たな付加価値としてニュータウンに導入するという試みで、ターゲットの設定に至った。
- 双方のまちづくり委員会の意見交換において、第一世代だけの交流では、持続可能な関係性を構築することは難しいことから、若い世代にあたる第二・三世代を巻き込んでいくことが必要であると考え、ターゲットの設定に至った。

●ターゲットへの広報・アプローチ

【実施事項】

- 関係案内人となる大和ハウス工業（株）が上郷ネオポリスまちづくり協議会や住民へチラシや広報により周知、募集を行った。

【成果・効果】

- ９月に実施した「農山村集落の魅力を体験するツアー」では、上郷ネオポリスの住民が１５名参加。まちづくり委員会関係者１０名、一般住民５名であった。
- 11月に実施した「首都圏におけるワインと食の勉強会」では、上郷ネオポリスの住民が４０名参加。まちづくり委員会関係者１１名、一般住民２８名、地区外住民１名であった。一般住民の参加が多く、東御市への関心が高まりつつあった。





5.関係人口の活動内容

●参加者（関係人口）が取り組んだ活動の内容

＜「とうみ風土の楽しみ方
～食とワインがつなぐまちづくり交流～」 ツアー＞
【日程】 2019年９月12日～13日
【参加者】47名

- 上郷ネオポリス住民15名、田沢地区住民含む東御市関係者27名、大和ハウス工業（株） ５名が参加。
- 田沢地区のヴィラデストガーデンファーム＆ワイナリーの見学、巨峰狩り、上郷ネオポリス住民と田沢地区住民のまちづくりに関するワークショップを実施。
- 参加者からは、「若い世代を巻き込んだ交流にしたい」「上郷ネオポリスで東御市の農産物を販売したい」「もっと意見交換の機会を持ちたい」などの声があった。

＜関係づくりのシンボルとなるオリジナルワインラベルの制作＞

- 交流のシンボルとなる上郷ネオポリスのオリジナルワインラベルをヴィラデストガーデンファーム＆ワイナリー会長の玉村豊男氏が制作。
- 長生きなぶどうが交流のシンボルとなり、次の世代に受け継がれていく様子を表現。
- 上郷ネオポリスで記念ワインの予約販売を行ったところ144本の購入があった。住民の東御市やワインに関する関心の高さを実感することができた。



「上郷ファーム（仮称）」予定地の見学



まちづくりに関するワークショップの様子



今回制作したオリジナルワインラベル

6.活動の成果

●本年度の目標達成状況

- 交流会・意見交換会への延べ参加人数：122人（目標：100人）
- 東御市に関心を持つ者の割合（ツアー参加者満足度）：80%（目標：５割以上）
- 東御市内での農作業手伝い参加人数：台風19号の被害により未実施（目標：15人）

✓ ３回実施した交流会・意見交換会の延べ参加人数は目標を上回った。
✓ 参加人数は目標値を上回ったが、参加者がまちづくり協議会に関わる住民の方が多く、また若い世代の参加がなかったことから、今後交流において幅広い世代への波及が課題と感じた。

●関係人口の地域との関わり方

- 交流会や意見交換会を重ねる中で、お互いの地域のことを知り、理解を深め、新聞やテレビなどのメディアなどでお互いの地域のことが紹介されているかなど関心を寄せる住民が増えているという意見があった。
- 上郷ネオポリスのまちづくり拠点となる野七里テラスにおいて、ワインを始めとした東御市の地域産品の常設販売などの検討も始まっており、目に見える形での関係性が深まりつつある。



2019年10月にオープンした上郷ネオポリスのまちづくり拠点「野七里テラス」

●その他の成果

- 特になし。

7.課題への対応

●事業で直面した課題とその対応策･解決方法

- 魅力体験ツアー、まちづくり交流会、意見交換会へ第二、三世代を巻き込んだ形で実施したかったが、結果的には、役員を中心に第一世代にあたる高齢者が参加者の大半を占めた。
- 東御市内の遊休荒廃農地を整備し、約40ａの「上郷ファーム（仮称）」を開墾した。ワイン用ぶどうや野菜などの定植を想定しているが、具体的な日常管理方法、何を栽培し生産物をどのようにしていくのかなどの詳細が未定のままである。
- 双方のまちづくり協議会が中心となり、住民を巻き込んだ形で関係づくりを進めていきたいと考えているが、上郷ネオポリス側では、まちづくり関係者以外の住民に向けた周知、理解が進んでいない状況にある。

●今後の課題と対応方針

- 今後、世代間交流に波及できるように、若い世代が魅力的に感じるツアーや交流会を企画、実施していく。
- 次年度以降は「上郷ファーム（仮称）」の日常管理等について、関係者での意見交換を重ね、３月までにある程度方向付けを行う。

8.将来への展望

●来年度以降の関係人口とのかかわり方

- 来年度以降は、「上郷ファーム（仮称）」を活用しながら、息の長い関係性を構築していく。
- 双方のまちづくり協議会の役員のみの交流とならないよう、若い世代を巻き込んだ形でのツアーや交流会を企画していく。
- ４月に新しい交流の始まりを記念して「上郷ファーム（仮称）」へワイン用ぶどうの定植を兼ねた交流会を行う。



●「関係人口」施策の展望

- 今回の上郷ネオポリスと田沢地区の交流をパイロット事業とし、他地域へ展開し、将来的には関係人口の拡大を図りたい。